



海の向こうから

皆さん こんにちは。それぞれの任国での活動いかがお過ごしですか？まだ到着して間もない方からもう日本への帰国日が近づいている方までいろんな状況に置かれていらっしゃることでしょう。日本は恋しいですか？もう任国の人に成り切ってしまっていますか？今回から OB 会報誌は、編集長が変わり装いも新たに皆様の下へ2008年度下半期の出来事をお届けします。どうぞお楽しみください。そして OB の方々今後とも宜しくお願い致します。

国際理解セミナー

「国際協力を身近に感じる」と言うテーマの下、平成21年2月1日(日)に広島市留学生会館にて国際理解セミナーが開催されました。現地での活動や原爆展、ハプニングなどOBならではの話が飛び交いました。当日は、100名の定員に対して立ち見客が出るほどの賑わいとなりました。OB 会から、以下の3名が壇上に立たれました。

大下 知慶さん
 17年度2次隊
 (理数科教師)
 (ウガンダ)



金丸 樹理さん
 18年度1次隊
 (養護)
 (タイ王国)



木村 哲也さん
 17年度3次隊
 (建築施工)
 (ホンジュラス共和国)



↑ 中国新聞(朝刊)

前半は、OV の木村さん、大下さん、金丸の活動報告を行いました。後半は、それぞれの講師とのディスカッションやアクティビティが行われました。リラックスした雰囲気の中、100名を越える参加者が国際協力を身近に感じれた2時間半だったと思います。帰国してもうすぐ1年が経とう

としているこの時期に、参加者の方に自分の活動内容を紹介することで自分自身も、任国でのこと、帰国後のことを振り返ることが出来たよい機会でした。

レポート 金丸 樹理さん



応募促進キャンペーン キャラバン隊

平成21年2月8日 広島市にキャラバンカーが到着しました。JCOA(青年海外協力協会)が行う「協力隊応募促進支援事業」の一環で全国の市町村を訪問しているイベントです。東北地方、沖縄、九州を終え山口県からやって来ました。

広島県では、2月9日～2月24日までの間に報道機関、全自治体、教育機関を訪問し、協力隊活動のPR、現職派遣制度の制定などをお願いして周りました。

広島県でのメインの担当は、下記の通りです。

また各訪問先には、馴染みの深いOBの方々も多数応援で駆けつけて下さり、地元の話で盛り上がり、帰国後如何に地域に貢献した活動をしているかなど様々な話が飛び交いキャンペーンの意義は、果たせたのではないかと思います。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

要員1

説明・対応担当) 木村 哲也さん
17年度3次隊 建築施工
(ホンジュラス共和国)



要員2

運転手・ブログ担当) 藤本 九一郎さん
17年度2次隊 コンピューター技術
(マラウイ)



要員2を務められた藤本さんは、山口県出身で、山口県のキャラバンでも運転手を勤められ、引き続き広島県を担当していただきました。そしてその経験を買われその後、岡山県へと旅立たれました。またキャラバン中は、毎日訪問先の状況などをブログで情報発信していただきました。キャラバン隊でのレポートを頂いています。

是非、ブログもご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/caravan-shi-chugoku3/>

(↑九さんの広島県キャラバンブログ)



レポート 藤本 九一郎さん
(山口県OB会 副会長)

今年の1月から2ヶ月間、愛媛、山口、広島と岡山の一部の自治体や教育機関、報道機関をキャラバンカーで訪問し、青年海外協力隊の応募促進のお手伝いをさせていただきました。

した。

広島県では各地を訪問させて頂き、いろいろな立場のみなさんと出会ったことは貴重な体験でした。いろいろな助言を頂き、ありがとうございました。キャラバンを通してよく自治体関係者や教育関係者、協力隊OB/OGなどから聞かされたことの一つは、農業や工業の後継者不足という問題でした。中には、「就農するなら自治体や地権者が土地から農機具からノウハウまでいろんなものを貸

せるのだが、根性だけは必要だ」と、暗に派遣切りの人たちを介護や農業に振り向けようとする発想に異議を唱えているのかな人もいらっしゃいました。私は派遣切りに遭っている人たちの多くは、むしろ、これまで格差社会のルールを受け入れて来た、辛抱強い人々ではないのかと思います。そして、それが裏目に出ると、ルールを変えて物事を良くして行こうという発想につながらないのではないのでしょうか。

その点、青年海外協力隊経験者は、格差社会を変えていける存在だと思います。そして、多くの辛抱強い人々のために、もっと活動の場があるような気がしています。

JICAよりお知らせ

帰国ボランティア専用HP

新しい情報を少しでも早く！！！！

*緊急公募などを随時お知らせ

*帰国隊員向けセミナーの案内、各種申請書・証明書のフォームのダウンロード

<http://www.jica.go.jp/shinrojoho/index.html>

(専用ID:jocvobog 専用パスワード:7fjvw3xq)

家族連絡会



平成21年2月22日に毎年恒例の家族連絡会が開催されました。ご家族の参加者は、過去最高の人数を記録し、会場は熱気に包まれていました。壇上では、OBによる活動報告と帰国されたばかりの18年度3次隊の綿本さん親子による対談が行われました。ご家族の方は留守中の娘さん・息子さんのことが心配で OB に続々と質問が寄せられていました。便りが無いのは、良い知らせとも言いますが、しばらく連絡を取っていない隊員の皆様。広報誌を読んだことをきっかけに元気になってよ！とご家族に連絡を入れてみてはいかがでしょうか？今の時代 Skype(スカイプ)もありますしね(by編集長)

さて、報告会の後は、恒例の食事会です。毎年 OB 会でいろんな国の料理を作り振舞うのですが、過去最高の参加者だったため、厨房は、てんてこ舞いだったようです。その厨房でリーダーとして取り仕切られた前田さんにレポートを頂きました。

厨房内では、好例の任国料理を沢山の OB で作りました。

今年のメニューは、バンガラカレー・オモツオ・マックルーバ・シリアのサラダ・果物・ドミニカコーヒー・ハイビスカスティーです。当日、調理担当だった OG の一人が大雪で北海道へ足止め！携帯で作り方を教えてもらいながら作った料理もありました。家では料理をしない男性 OB も今日は大活躍でした。

どの料理も皆さん美味しいと言って食べていただきました。特にバンガラカレーは参加した OB の方が喜んでいたので?と思います。来年もみなさんよろしく願います。



レポート 前田 貴子さん

(H11年度1次隊/栄養士)
(グアテマラ)



OB会総会

家族連絡会のあと、OB 会による総会が開催されました。

総会記事(年間予定)

平成21年度の広島県OB会、新しい理事も加わり新鮮な顔ぶれとなりました。おなじみのイベントから新しい企画まで、知恵を絞って、JICA ボランティア事業の応援をしていきます！イベント当日には、ぜひ、みなさまも遊びに来てくださいね。懐かしい顔に出会えるのを楽しみにしています

報告者 大木 健一 OB 会長さん

(H15年度2次隊/電気機器)
(エルサルバドル)



開催予定日	イベント
8/29(土)・30(日)	第1回スキルアップセミナー(H22 年度ブロック会議予定地にて)
9月 ※日付未定	19-1 次隊お帰りなさい会, 第2回スキルアップセミナー

9/14(火)~18(金)のいずれか1日	21年度2次隊壮行会
10月 ※日付未定	第3回スキルアップセミナー
10/24(土)・25(日)	フードフェスティバル
11/15(日)	国際交流・協力の日, 帰国隊員報告会
12月 ※日付未定	派遣隊員支援, 会報発送, 第4回スキルアップセミナー
2月 ※日付未定	19-3次隊お帰りのなさい会, 第5回スキルアップセミナー
2月 ※日付未定	留守家族懇談会, 総会
3/15(月)~19(金)のいずれか1日	21年度4次隊壮行会

新理事決定!

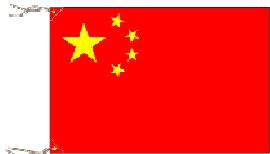
新しい顔ぶれも加わったOB会役員をご紹介します。

役職	氏名	隊次・派遣国・職種	イベントリーダー
会長	大木 健一	15-2・エルサルバドル・電気機器	
副会長	山城 亮介	15-3・ハンガリー・野球	帰国報告会
副会長	前田 貴子	11-1・グアテマラ・栄養士	名刺
事務局長	鈴木 知昇	15-3・ボツワナ・コンピュータ技術	派遣中隊員支援・宴会部長
会計	久田 光孝	12-2・PNG・村落開発普及員	
理事	細川 光宜	08-2・PNG・木工	家族連絡会
理事	江崎 美穂	05-2・マレーシア・日本語教師	エッセイコンテスト
理事	川端 麻子	13-1・ニカラグア・音楽	
理事	磯本 光広	12-1・タンザニア・電子計算機	OB会ホームページ
理事	皿海 博信	15-2・タンザニア・自動車板金	
理事	山本 かおり	11-3・コロンビア・ソーシャルワーカー	
理事	榎本 伸悦	03-1・PNG・体育	HOCAほかプロジェクト
理事	大田黒 留衣	14-1・マラウイ・体育	定例会
理事	原 規子	20回生・ブラジル・日系日本語学校教師	お帰りのなさい会
理事	井 尚子	16-2・コスタリカ・観光業	
理事	村上 加枝	16-2・コスタリカ・環境教育	
理事	松岡 美砂	12-1・ドミニカ共和国・理学療法士	
理事	碓木 利恵	15-1・ブルキナファソ・果樹	スキルアップセミナー(会場)
理事	金丸 樹里	18-1・タイ・養護	スキルアップセミナー(企画)
理事	木村 哲也	17-3・ホンジュラス・建築施工	会報編集長
理事	大下 友慶	17-2・ウガンダ・理数科教師	国際交流・協力の日
理事	村田 一郎	15-1・メキシコ・野菜	ぺあせろべ(フードフェスタ)
理事	狩山 聡子	12-1・ガーナ・保健師	
ブロック幹事	橋本 英治	60-1・トンガ・理数科教師	
監事	木村 宣子	52-1・シリア・陸上競技	
監事	天野 重美	44-3・マレーシア・溶接	

随時、理事会員募集しています。新しく帰国されたOBの方のご参加もお待ちしています。OB会までメールをお送りください。

OB紹介

このコーナーでは、日本で活躍中の協力隊OBの方に登場していただきます。帰国後5年以上経たれている方にスポットを当て、現在派遣中の隊員が心配している「帰国後」に迫ります。



(中華人民共和国について)

1949年に中国共産党によって建国された社会主義国家。首都は北京(ペキン)ギネスブックによると最も多くの国と国境を接している国である。



胡子 和子さん

(H12年度3次隊/日本語教師)
(中国)

1. お名前は？
胡子 和子と言います。
2. どちらに派遣されたのですか？
中国です。
3. 隊次は？
12年度3次隊です。
4. 職種は何だったのですか？
日本語教師をしていました。
5. 派遣中はどのような活動されました？
大学生、赴日前研修生への日本語指導や若手日本語教師への日本語教育指導ですね。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴を教えてください
派遣前は日本語教師をしていました。
経歴は、大学を卒業後、会社勤務を経て日本語教師になりました。日本語学校、私立大学などで外国人留学生相手に日本語の指導をしました。
7. 協力隊に何故行こうと思いましたが？
自分の技術を活かして、日本語、日本文化をより多くの外国人に知ってもらいたいと思いました。若いうちに何でもやってみたいと思ったのと日本語教師としてのキャリアアップです。
8. 協力隊へ行って初めての感想
中国(人)の、これまでのイメージとは全く違う面も見ることができた気がします。また日本(人)の別の面も見られたし、何より、自分がたくましく、前向きな人間に少しなれた(かな)
9. 帰国後の職業(現在)
主婦&日本語教師
10. 今のお仕事に協力隊の経験が活きていますか？
2年間の活動を終え、帰国して数年経つてくるともっともっとあの時何かできたのでは…と思う気持ちが正直強くなってきました。
11. 派遣中の隊員にアドバイスをお願いします
日本の常識では計れない結果が得られるのも協力隊の醍醐味。何事にも果敢にチャレンジしてほしいですね！
12. 帰国後に任国へ遊びに行かれたか
はい 行きましたよ。

胡子さん お忙しい中、ご協力どうもありがとうございました。2年間の活動中の写真を編集室まで封書に入れて送ってくださいました。その中に返信用封筒を準備して下さったこと、そして切手まで貼って下さったことに私は心を打たれました。活動中の皆様も10.の「もっともっとあの時何かが出来たのでは」と思われた経験を参考にして今しか出来ない任国での活動・体験に励んでくださいね。



↑ 大学生(日本語専攻)と大学のLL教室にて



↑ 研修生に日本料理を振舞っています

任国への里帰り

毎年多くの広島県出身者が任国での活動を終えて帰国されます。でもすぐに任国での楽しかった思い出や辛かった思い出、一緒に仕事した同僚やホストファミリーの事を思うと戻りたくなる方が多いのではないのでしょうか？

多くの方がその後の進路の合間を見て、里帰りされているようです。そんな中、今回はドミニカ共和国へ里帰り旅行をされた松岡さんにレポートを頂きました。



(ドミニカ共和国について)

西インド諸島の大アンティル諸島のイスパニョーラ島東部に位置する共和国家。ハイチと国境を接する。米州で最初にヨーロッパ人が恒久的に定住した土地。首都は、サント・ドミンゴ

レポート 松岡 美砂さん

(H12年度1次隊/理学療法士)
(ドミニカ共和国)

こここのところ、隊員 OB で流行っている、“任国への里帰り”、私もその波にのって、7年ぶりの里帰りを強行しました。許された日数は1週間、そのうち移動日を除くと、現地で過ごせるのはたったの4日間、せっかくの里帰りでやりたいことも山ほどあり、時間の読めない国で、どこまで果たせるか期待を胸に出発したはずでした。

ところが…、出発当日、成田での貨物機墜落事故が発生！ここまで来て…、と一瞬あきらめかけたのも束の間、飛行機のキャンセルが相次いでいる中、私が搭乗予定の飛行機に関しては、無事時間通りの手続きが始まり、今度は本当に出発できたのでした。Gracias a Dios! (あ〜神様…)と心の中でつぶやいたのは言うまでもありません。

こうして、20時間を超える長旅の末、ドミニカ共和国へ入国。7年というブランクから、言語に多少不安もありましたが、現地に到着や否や、その不安をよそに、自分でもびっくりするくらい普通にスペイン語が話せちゃってました。頭のなかに切り替えボタンでもあるんでしょうね、きっと。(あくまでも、ドミニカ語ですけれどね)この日は、深夜到着ということもあり、JICAの瀧口さんに無理言って紹介いただいた、現地のJICA職員さんのお宅に泊めてもらいました。翌日、早速任地であるサンティアゴへ出発。高速バスのバス停までタクシー移動した際、たいした距離でもないのに、あまりにも高いタクシー料金を要求されたため、最初は運転手を疑ってしまったのですが、7年前より物価が3~4倍に跳ね上がっているという事実



にここではじめて直面したのでした。

任地へ到着後は、宿泊をお願いしていた、当時の職場の同僚で、今でも連絡を取り合っている友人宅へ移動、お昼をごちそうになり、もう一人の現地の友人と合流、その彼と職場を訪問して

みました。隊員当時、草の根協力資金で、職場の環境整備にたずさわりましたが、ごゆっくりな工事に付き合っている間に、任期終了…、結局、工事を見届けることができず帰国した経緯もあり、今回の里帰り初めて完成具合を確かめることができたのです。多少使われ方に問題もありましたが、使う人が使う人だし…と、ここは100歩譲っておくことにしました。一通り職員への挨拶をすませ、次なる目的“ママ探し”に取り掛かりました。当時ホームステイ先のママが、私が帰国後、どうやら引っ越ししたとの情報があり、旅行前にも様々な経路で探してもらっていたのですが、結局見つからず、現地での搜索をせざるを得なかったのです。とりあえず、以前住んでいたアパートを訪問、住人に「マミー(通称)のこと知らない？」ときいてみたところ、「マミーなら、すぐそのアパートの2階に住んでるわよ」と。行ってみると、ママ発見、こうして、あっさり、めでたくママに再開できたのです。「あら、ミサ、また来たのね！」と、冷静

なママ。「もちろん泊まってくんでしょ！」と、ありがたいお言葉をいただき、この日は友人宅で過ごし、翌日から2日間、ママのところでお世話になったのです。一緒に料理を作ったり、買い物に出かけたり、隊員時代の話や、私の将来(結婚はどうするんだということ)を心配してくれるママとゆっくり話をし、楽しく、懐かしく過ごすことができました。4日目、ママや友人達に別れを告げ、再び首都へ移動、スペイン植民地時代に作られ、今では世界遺産に登録されている町をゆっくり余韻にひたりながら観光し、ここで一泊。翌日は帰国の経由地であるニューヨークへ出発するため空港へ向かいました。空港へ向かうまで、少し時間にも余裕があったため、タクシー運転手に、空港から近いビーチに寄ってもらおう依頼、ドミニカまで来て、あやうく海を見ずに帰るところでしたが、こうして無事ビーチでの時間を過ごすこともできました。7年という月日が経っての里帰りとなりましたが、アポなし訪問での職場のスタッフの私と再会した時の驚き様

は、とても印象的でした。ちゃんと覚えておいてくれて、再開を喜んでくれてありがたかったです。また、WBCで日本が優勝を果たしたのもこの時期で、町を歩いていると、“おまえ日本人か？日本優勝したじゃないか！よかったなあ！”と何人かに声をかけられたり、優勝の瞬間を新聞の一面に載せるなど、自分の国の勝ち負けより、野球の試合の結果を重視するあたり、やっぱり野球の国なんだなということを再認識しました。気さくに声をかけてくる辺りも、なんだか、なつかしく、憎めない一面なんですよ。以前より、物価があがり多少物騒にもなっていますが、帰る場所があり、自分を迎えてくれる人がいて、あの頃と変わらない時間を少しの間でも過ごすことができ、バタバタの1週間でしたが、ほんとに充実した貴重な時間となりました。また時間をみつけて、今度はもっとゆっくりと過ごしていきたいとすでに思っている次第です。



←ホストファミリーと再会を楽しむ松岡さん

編集長より一言)松岡さん無事に里帰り旅行を決行出来て良かったですね。日本から行くと20時間もかかるのですね。7年ぶりですか？久しぶりに会った同僚・ホストファミリーの方々も喜ばれたことでしょう。

☆このコーナーでは、里帰り旅行記を随時募集しています。是非次号でのレポートお待ちしております。編集局へメールを送信してください。

HOCAほかプロジェクトから

HOCA ほかプロジェクトの昨年度報告

～昨年度支援した、ベリーズの濱長さんから～

濱長さん(19年度3次隊 ベリーズ 体育)は、配属先の学校で、昨年7月に原爆展を開催されました。その約1ヶ月前から原爆による白血病で亡くなった佐々木貞子さんの話をおこない、平和への願いや気持ちを形として子どもたちの心に残して欲しいと、生徒たちと折った折鶴を、平和公園に送られました。

その濱長さんから、報告とOB会にメッセージが届きました。

「今回このHOCA ほかプロジェクトを利用して頂き、千羽鶴を広島県平和記念公園まで郵送させて頂きました。これらの千羽鶴は白血病で亡くなった佐々木貞子さんの慰霊碑に供えさせて頂き、その際に広島県の中學生に手伝ってもらいました。

その時に撮って頂いた写真と平和記念公園からのレターを配属先の教員にも見せ、一緒に原爆の悲惨さや平和の尊さを再確認することが出来ました。

このような活動が行えたのも、HOCA ほかプロジェクトの支援があったからこそだと感謝しております。本当にありがとうございました。

残りの任期も頑張ってくださいね！



プロジェクト担当者 大田黒 留衣さん
(H14年度1次隊/体育)
(マラウイ)



↑ 濱長さんの講座風景

！！！！今年度の募集！！！！

今年度もHOCA ほかプロジェクトの募集をします。現在、すでに3件の申請があがってきています。現在派遣中隊員のみなさんは、申請用紙を同封しておりますので、ぜひご検討ください。

申し込み締め切りは **9月末日** です。たくさんのご応募をお待ちしております！

HOCAほかプロジェクトとは

青年海外協力隊広島県OB会が、現在派遣中の隊員に活動支援を行うプロジェクトです。広島県協力隊を育てる会からの支援金と、ペあせろべや国際交流・協力の日でのエスニック料理の売り上げを、派遣中隊員の活動経費に支援します。

帰国OBより

2009年4月に帰国したばかりの19年度1次隊現職参加のOB二人に登場していただきます。1次隊と言うと6月中旬に続々と帰国して来ましたがお二人は現職参加と言うことで既に4月から日本でのお仕事が始まっています。お忙しい中、お話を聞いてみました。



(カンボジア)について
ベトナム、タイ、ラオスに接している東南アジアの国家。首都はプノンペン。国民の90%以上がクメール人。言語は、クメール語で宗教は、仏教である。

鍵山 彩さん
(H19年度1次隊/小学校教諭)
(カンボジア)



1. どんな活動をされていたのですか？

カンボジアの地方都市シェムリアップにある教員養成校で、情操教育の指導にあたっていました。現地の音楽教育を支援している日本のNGOや、広島市民のみなさんからの楽器提供などの支援をいただいたので、特に音楽教育に力を入れていました。ほかには、カンボジアにある材料や現地のよさを生かした美術活動、また体育の時には木陰でヨガを教えていました。

2. 帰国後はどのように過ごされていますか？

現職参加で行かせていただいたので、また小学校現場に復帰しました。ちょうど転勤の年にあたっていたため、心機一転新しい学校でのスタートとなりました。カンボジアの大自然の中で育つ子供たちの「子供らしさ」に惹かれ、自然体験学習に力を入れている学校を希望しました。今は、自然豊かな島で育つ子供たちと日々格闘しています。

3. 協力隊での感想を教えてください。

自分がやりたかった海外の教育現場での活動ができて、自分の人生にとってとてもよい経験になりました。また、協力隊に参加することで、知り合えた仲間や現地の人々との出会いからたくさんのことを学びました。

4. 帰国後の日本で感じたことは何でしょうか？

日本の良さを改めて感じています。また、日本の仕事は本当に忙しいです！

5. 任国での2年間の活動が今の仕事に生きていますか？

はい！！

6. どのような点で？

視野が広がったことで、今までとは違う視点で子供たちを見れている気がします。

7. 派遣中の隊員にアドバイスを！

自分がこれだ！と思ったことに没頭して、充実した日々を送ってください。それが、活動であってもそのほかのことであっても、自分でデザインできる2年間です。人生の貴重な時間を、すてきにデザインしてくださいね♪



1. どんな活動をされていたのですか？

小学校教員養成校で、音楽を中心に学生に指導していました。楽器に触れたことのない学生がほとんどですが、日本から送っていただいた鍵盤ハーモニカを使って、ドレミの基礎から練習し、カンボジアの曲も吹けるようになりました。また、附属小学校で音楽クラブを作り、毎日練習を続けました。活動後半では、鍵盤ハーモニカやリコーダー、打楽器も加えて、日本の曲やカンボジアの曲を合奏して楽しみました。

2. 帰国後はどのように過ごされていますか？

小学校に復帰しました。派遣前と同じ学校に戻り、今年は2年生を担当しています。

3. 協力隊での感想を教えてください。

自分と向き合えた2年間でした。思うように行かないことばかりだったけれど、協力隊に参加したことは100%よかったと思っています。

4. 帰国後の日本で感じたことは何でしょうか？

日本人はすごい。すべてがすごい。

5. 任国での2年間の活動が今の仕事に生きていますか？

いいえ。気持ち的には「ゆとりある生活を」と思うのですが、無理でした…。
(もちろん、部分的には生きています)

7. 派遣中の隊員にアドバイスを！

要請内容に固執せず、自分がやりたいことと、相手が望んでいることの両方をやったらいいと思います。

森下 理奈さん
(H19年度1次隊／小学校教諭)
(カンボジア)



出国前アンケート(20年度4次隊)

20年度4次隊の皆様に出国前にアンケートを実施しました。実施してから数ヶ月が経ち、今頃は皆さん元気に任地で活動されていることでしょう。壁にぶち当たったときは、出国前の意気込み、心境に戻ってみましょう。

氏名	派遣国	職種	協力隊に応募したきっかけは何か	訓練中の思い出は？	出国前の心境は？	これから2年間の活動に向けての意気込みを一言で
村上 佳代	ガーナ	保健師	友人のすすめ	生活班でのバカさわぎ。みんなよい人やった	不安があるけど、いってみたいとわかんない	健康に気をつける
大下龍司	タンザニア	自動車整備	人助け	混浴	早く	やったるどー
樽澤 英治	ドミニカ共和国	工業排水処理	友人の勧めがあった。	語学教室一教師(ボリビア)が非常に熱心であった。	多数の友人を作りたい。	西語のレベルアップ

藤川 義範	ネパール	理科教育 (小・中)	SV制度があることを知り、説明会に出かけて情報を得た。	準備(プレゼン)に宿題にと、ハードでした。あと、JOC Vの方々と一緒の日々の生活です。	楽しみと不安	力まずあせらず”自然”にできればいいですね。
下渡 泰司	ドミニカ共和国	村落開発 普及員	途上国の生活を知りたかった。その中で、現地の人の役に立ちたいし、自分も人々からいろいろ勉強したい	語学クラス。過去にいろんな経歴を持った仲間なのに、仲良く勉強にはげむことができた。	話や写真でしか知ることのできない国の情報が、もうすぐ自分で知れると、ワクワクする	2年間で、男も人間も磨いてきたい。
東 裕樹	ベトナム	村落開発 普及員	大学の頃、ポスターを見た。	すばらしい仲間と出会えた事。一生の友人。同じ空気が良かった。	熱い気持ちを忘れず、生きて帰って来る事！	任地での活動が後に続くように！そして何かを学び持ち帰る事。
迫田心平	マラウイ	村落開発 普及員	元々、転職を希望していたが、電車のポスターを見て興味を持ち、説明会に参加し、さらに興味を持った。	語学訓練。英語がしゃべれなかったので苦労したが、良い思い出になった。	あまり実感がわかない。初めて海外に出るので楽しみ。	あまり肩に力を入れず、のんびりじっくり取り組む。

出国前アンケート(21年度1次隊)

平成21年6月18日に広島市中区のサワディーで行われた送別会に出席されていた21年度1次隊の方々にも出国前のアンケートをお願いしました。この広報誌は、任地で語学研修が終わった頃に手元に届くのでしょうか？

氏名	派遣国	職種	協力隊に応募したきっかけは何か	訓練中の思い出は？	出国前の心境は？	これから2年間の活動に向けての意気込みを一言で
伊藤 えい	セネガル	小学校教諭	中学校の時から、発展途上国に行ってボランティアをしてみたかった。	様々な人々と出会えたこと:協力隊に來ている人たちと話ができ、友達になれたこと。	現地の生活になじむのにどのくらい時間がかかるのだろうか不安	自分にできることをやって、たくさんの方の事を吸収してくるぞ！
木村 敬美	ホンジュラス	障害児教育	募集説明会で、「まず一歩踏み出して」とすすめられ自信がないのですが応募しました。	語学の勉強を苦しみながらがんばりました。	健康第一。残す夫の健康も心配です。	あせらず 楽しく 元気に 帰国！

長谷川 貴司	キルギス	PC インストラクター	将来中央アジア地域でのビジネス開発をやりたいだったので、協力隊の経験が役に立つと思った。	語学交流会でロシア語スピーチをして、皆にすごかったと言われたこと。	人生を変える旅にしたい！！	2年間はチャンスを与えられたと思い、1分1秒を大切に過ごしたい。
馬場 あゆみ	ラオス	柔道	高校の先輩が行っていたため、話を聞いて行きたくなりました。海外に行きたかった！！	技術補完研修最終日で、骨折したこと。健康には気を付けよう！！	早く行きたいです！！期待と期待で一杯です。	いつか、自分の生徒がオリンピックにでてくれる事を目標にがんばります！
福原 涼子	ブラジル	日系日本語学校教師	原さんに影響を受けて	ポルトガル語の授業 毎日楽しかったです。先生・クラスメイトに恵まれて良かったです。	不安もありますが、とても楽しみです	日本語を教えることを通じて、日系の方や非日系の方に日本に興味を持ってもらいたい。
松坂 由美	グアテマラ	小学校教諭	大学中で協力隊の説明会があり、決意。	スペイン語で算数の模擬授業をしたこと。	期待 8 割、不安 2 割。	たくさん話して、聞いて、いろいろなことを吸収していきます！！
道路 正登	バングラデシュ	工作機械	現地の人々と交流することで、協調性を養い、宗教が文化、歴史、教育を学んで自己の世界観を拓け、異文化において忍耐力が的確な判断力を身に付けて、国際貢献したいというきっかけ	語学や交流。	初心を忘れず！	あまり、頑張りすぎないように頑張る。

編集室から

どうも初めまして。今号から広島県 OB 会会報誌の編集長を務めます17年度3次隊 木村哲也と言います。編集長と言っても私しか居ないので編集員ですね。2008年4月に帰国し、9月に建築設計事務所を開業して9ヶ月が経ちました。私もホンジュラスで年に2回ほどこの広報誌を日本から送っていただいていたので読んでいました。隊員時代は、OB 会の皆様にお世話になっていたの何かしら恩返しがこの業務を引き受けたのですが、引き受けた以上は、興味を持って読んでもらえるような内容にしていきたいと思います。編集員が私一人なので是非、世界各地の隊員の皆様に特派員、広島県に散らばっているOBの皆様に記者になって頂き色々な情報を載せていきたいと思います。半年後(11月末)には、次の作成に入ります。それまでにどんどん任国での面白エピソード・活動紹介、活躍されている OB 紹介(自薦・他薦は問いません)などお待ちしております。



投稿・ご意見・ご要望は、こちらまで↓

hiroshima_jocv_obkai@yahoo.co.jp (OB会メール) or
lifetetsu@hotmail.com (編集長直接メール)

編集室所在地: 広島県東広島市
木村哲也建築デザインオフィス内
(ブログ) <http://ameblo.jp/kimutetsu-architect2008/>